

函館国際水産・海洋都市構想

地域再生計画の目指すもの

はじめに

現在、全国各地で国の地域再生推進プログラム
の支援策に沿って、各自治体は民間企業などと共に地域振興策を検討してきた。その結果十六年六月に「函館国際水産・海洋都市構想」が地域再生計画に認定された。函館市では、今後およそ十年の期間で、国の支援や政策投資銀行の低利融資などを受けながらこの構想の推進に取り組むことになる。

一、地域再生計画の意義

水産や海洋に関する研究は、無限の可能性を持っており、海に囲まれたわが国が科学技術の創造を目指す上で、最も重点的に考えるべき研究分野である。

函館市は、対馬海流、リマン海流、千島海流（親潮）の三つの異なった海流が流れ込む津軽海峡に面し、水産・海洋に関する研究を行なう上で貴重な地理的・自然的条件に恵まれ、北海道大学大学院

水産科学研究科を始めとし、水産・海洋に関する研究を行なう上で他地域にない環境が整っている。

また、いち早く国際貿易港として開港していることから、諸外国の先進技術や文化と触れ合い、さまざまな歴史的建造物異国情緒豊かな街並などを観光資源として毎年、国内外から五百万人を超える観光客を迎え入れている。

こうした地域の優位性や特性を活用した街づくりを目指し、平成十五年三月に「函館国際水産・海洋都市構想」を策定した。その後、構想は更に具体化し、地域振興を図る地域再生計画として「函館国際水産・海洋都市構想の推進」が正式に認定されたのである。そこで、いよいよ構想の推進に取り組むことになったが、今後のさまざまな取組みについて述べる

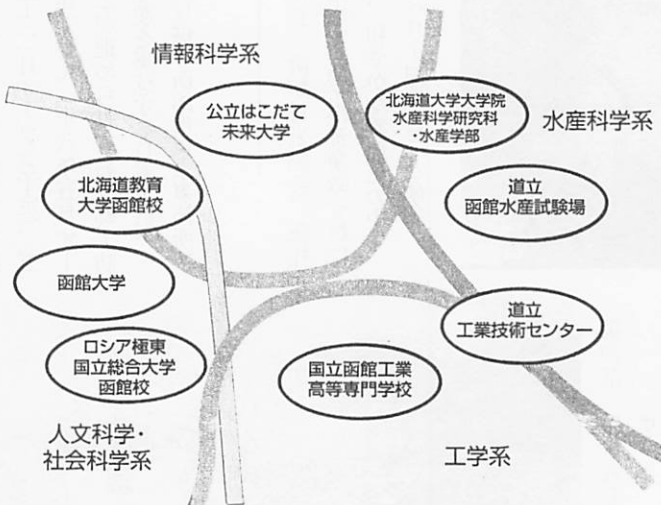
二、学術・研究機関の集積

既に北海道大学大学院水産科学研究

科・水産学部、函館市工業高等専門学校
公立はこだて未来大学において民間企業
などとの共同施設が整備されている。こ
れらの活用を図りながら、旧函館ドック
跡地に国・大学・道・市の複合的な研究
施設や民間研究機関の用地を整備し、水
産・海洋に関する一大研究拠点を形
成する。

業が、共同で代表的な水産資源のイカやコ
ンブの高付加価値化のための研究開発を
進め、世界初の技術を開発するなどの成
果が現われてきている。市としては地域
の企業と大学等の共同研究などの連携促
進を図るため、十六年度に水産・海洋産
学連携促進補助制度を創設、企業と大学
等との共同研究を支援している。

函館市の学術・研究機関



三、地域と学術・研究機関の連携

現在、地域の学術・研究機関と民間企

一方研究の国際化のために外国人研究者の受け入れを促進し、世界的視野での産学連携への取組みも図りながら、新た

な産業や雇用の創出に取組んでいる。

また、学術・研究機関の人的交流を図るため大学センターの設置による高等教育機関の連携を深める。

四、観光と学術・研究との融合

学術・研究機関の持つ研究資料やデータを観光施設で展示するなど、知的財産の観光面での活用を図る。また十六年度に整備の終わるJ R函館駅前開発を核として、隣接地に旅客船の接岸可能な埠頭を整備し、観光客の誘致を図る。

更に、海をテーマとした市民参加型イベントを創出し、水産・海洋ゾーンや旅客船埠頭に内外の帆船を招聘するなど市民・観光客、外国人研究員なども楽しめる観光と融合した水産・海洋都市を形成する。

五、水産・海洋と市民生活の調和

地域の海の情報を発信し、研究機関と連携した施設として、水産・海洋科学館の整備をはじめ、まちかどデジタル水族館を市内各所に設置する。さらに市民フオーラムなどを開いて、地域の取組みや水産・海洋との関わりなどをPRして海を活かした新しい産業や文化の創出を図る。

六、市町村合併後の展開

平成十六年十二月に渡島半島南東部の

四町村との合併が決定しており、これにより新函館市は全国屈指の水産都市となり「豊かな海が未来を拓く、ふれあいとやさしさに包まれた世界都市」を将来像としてかかげ、新たなまちづくりを取組む。また広域的な事業として、海洋情報収集システムの開発について、市が中心となつて渡島管内で実証試験に取組み、将来的に全道での展開が検討されている。このほか、市として起業化や研究機関の立地に対する支援施策を展開すること

ペリー来航一五〇周年記念祭

弦巻綱男

五月十七日は郷土函館の日米開港一五〇周年記念の節目の年にあたる。当時ペリーに絶妙な外交手腕（後世コンニャク条約と讃えられた）で対応した松前藩家老であった松前勘解由の曾孫にあたる東京在住の松前洋一夫妻と共に、記念式典など各種の行事に列席した。

第一部 墓前祭 舟見町外人墓地は安政元年に没したペリー艦隊の水兵二名らを葬った場所で、午前十時から祈禱献花が捧げられた。

第二部 記念式典 二年前に建立されたペリー提督記念碑前広場でUSAサキソフォントリオが演奏、此処の愛称を「ペリー広場」と命名宣言。野田日米協会会長より献花。

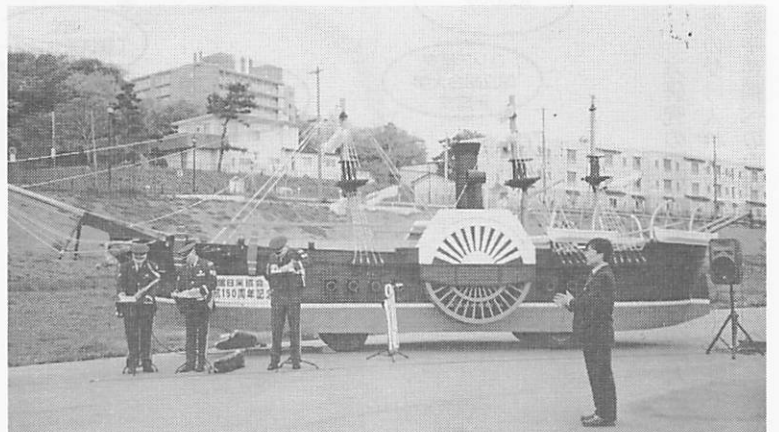
第三部 記念祝賀会 午後一時より国

新しい地域の活力を創出する。

以上が計画の概略であるが、函館市では、この他に北海道新幹線の着工（十七年度初）、北海道最大規模の屋台村の開設（十七年初冬オープン予定）、中央図書館の建設（十七年十二月オープン予定）、五稜郭タワーの建て替え（十八年五月オープン予定）などが進められており郷土訪問の際、その変貌を実感する日も近い。

（資料提供・函館市東京事務所）

際ホテルで、市長、函館日米協会、在札幌米総領事、米空軍太平洋音楽隊それに一般市民が参列、和やかな雰囲気の中で、五月十七日を「ペリー記念日」と命名。



第四部 USAフレック・ジャズコンサート

市民会館大ホールで午後六時から米国防軍太平洋音楽隊の洗練された演奏に大拍手、特にロックバンドとサキソフォントリオの競演が最高に盛り上がった。

五月十七日は前日の大雨が去って晴天当日市長や日米協会会長より、日米親善、国際観光、経済交流をさらに発展させ、相互の繁栄を図る発言があった。

（道南会顧問・松前協会会長）

早坂茂三さんを偲ぶ

田沼修二

六月二十日、早坂さんの訃報を知り、あまりの突然のことに言葉も無かった。五月下旬に検査入院され一旦帰宅された折りに、お見舞いを送ったところ、六月五日付けの礼状を頂いたばかりで、文面には「何とも早、鬱陶しい展開となりました。十四日から四週間程入院してシゴキを受けます」とあった。今にして思えば何かしら予兆のようなものを自覚されていたのかも知れない。

それにしても余りにも急な旅立ちであった。ついこの間まで一緒にゴルフを回り、下町のグルメを楽しんだことなど、悲しみは尽きない。特に道南会の行事には熱心に参加され、花の下の円座を囲みお握りを頬張りながら、少年時代の蓬莱町界限の昔の思い出話に興じた姿は目に焼き付いている。

あまり愛想の良い方ではなかったが、道南会や東川会では、彼なりの精一杯のサービス精神を発揮していたように思われる。そして、それが政界という魅惑魍魎の中で生きてきた彼にとって、貴重な息抜きの場であつたに違いない。

私がNHKで多年担当していた「国会討論会」などの政治番組に、田中さんが出席される時、常に早坂秘書が傍らにいた。函中の同窓の誼みから交友がはじまり、爾来三十数年、この間公私に亘る交

誼は決して忘れることは出来ない。

思えば大蔵大臣秘書官に始まり、総理秘書官、ロッキード裁判、田中氏の逝去というドラマを経験した早坂氏は、類い稀な語り部として、また歴史の証言者として、余人には決してできない貴重な多くの証言を残して、忽焉として旅だつていった。イラクや年金など大きな問題を抱えた日本の進路を、どのように選択すべきか、ぜひ早坂氏の数々の修羅場を乗り越えた見識を聞きたい所であつた。それも虚しいこととなつてしまった。

今はただご冥福を祈るばかりである。

〔曾志野CCクイーンコースにて〕



東京東川会・東京大森会

合同同窓会

平成十四年三月函館市立東川小学校、大森小学校は六十五年の歴史を残して閉校となりました。そして四月から両校は統合され、新しい「あさひ小学校」になりました。閉校になる東川小学校を偲んで、早坂茂三さんが音頭をとり道南会のメンバーにより平成十四年六月、東京東川会が出来ました。

あさひ小学校初代校長小岩真智子先生は東川小学校の最後の校長先生でもありました。新しいあさひ小学校の校長先生としての挨拶の中で「東川小学校、大森小学校あわせて二万四千人の卒業生も母校を愛してほしい」と云われました。

今年で三回目を迎える東京東川会に、大森小学校の方も招待してはとの話があり、早速道南会の瀬田松さん、谷藤さんと連絡を取り両校幹事の方々と打ち合せの末、六月十九日飯野ビルの「レストラン、キャッスル」で合同同窓会を開くことが出来ました。

梅雨の時期にもかかわらず当日は晴天に恵まれ、一二〇人を越す方々が集まり盛会でした。函館からは小岩真智子校長先生が出席され、今はなき東川小学校、大森小学校の校歌を全員で歌い、楽しい一時を過ごしました。

翌二十日、早坂茂三名誉会長は、この会の成立を見届けたかのように旅立つて

行かれました。

当日、東川小学校第一回生で画家の早藤一郎さんから、新しい校舎の記念にと「塔のある風景」八十号の贈呈がありました。ハリストス教会、カトリック教会の二つの塔の向こうに、取り壊されて今はない東川小学校の校舎と大森小学校の校舎が遠くに見える素晴らしい風景画です。函館にお帰りの節には近代的設備を誇るあさひ小学校を尋ね、是非この絵をご覧ください。

東京東川会会長 渡辺宏司



『ブルガリアのお花見』

相馬正樹

四月十六日成田を出発し、エルミタージユ美術館とエカテリーナ宮殿の豪華絢爛な絵画や美術品に圧倒された後、エストニア、ラトビア、リトアニアというバルト海三国間五百キロをバスで歴訪した。予定通りのスケジュールを消化して最後の目的地ソフィアに着いたのは四月二十三日の夜である。

今回のソフィアでの花見は、道南会の数名で、一九九九年にブルガリアに持ち込んだ百本の苗木が咲かせた花との対面が目的だ。翌日は快晴、気温十五度、絶好の花見日和となった。午前中市内観光を終えて、午後三時半頃国立図書館前の広場に集合する。ここに分植した二十本の桜は、我々を歓迎するかのよう、見事な満開の状態を迎えてくれた。

このお花見の勸進元は、元駐日ブルガリア大使バシカロフ氏で、彼は日本語ができる上に顔が広いので司会をお願いした。推進役のカネフ氏はプロデューサーとして忙しく、アカデミーの海洋研究所のシュテルコフ博士もバルナからかけつけてくれた。これらの大学関係者のお声がかかりで集ったゆかりの人たちは総勢二百人余りという大盛会となった。

日本からの応援団には、胸に赤い記章が配られ、私は来賓としてセレモニーをするというので正面に並ばされた。定刻

四時になると、ソフィア放送少年少女合唱団の「サクラ」の合唱で「花見の宴」の幕が開いた。今日は正式の公演ではないので、普段着のままでの公演だが、歌を聞けば素人ではないとすぐ気がつく。異国の地で聞く日本語の天使の歌声「サクラ」は、感銘深く胸のつまる思いがするものである。

最初に司会者からこのお花見の経緯が述べられ、ソフィア市長ステファン・ソフィアンスキー氏からさくら寄贈に対する謝辞が紹介された。次に国立図書館長とブルガリア駐箚市橋日本大使のご挨拶があった。ここの館長さんは昨年この庭園でお花見の主催を約束してくれた女性であり、これらの通訳は美声と美貌の誉れ高きピリアナさんが引き受けてくれた。彼女も東海大学の卒業生で、現在大使館の通訳官である。今日は指揮を女性に譲っていたが、この合唱団の常任指揮者であるフリストフさんの温厚な顔も見えていた。

型通りの儀式が終わって野外お花見パーティーに移った。早速テレビのインタビューが待ち構えている。「さくらを寄付することになった動機を聞かせてください」

「もう七年ばかり前に、ソフィアで私の大学の留学生の集まりがありました。その時 出席して……」

と話の途中で、通訳が割り込んでブル

ガリア語に置き変わってしまったているらしい。氣勢をそがれて熱弁をふるうに至らなかったのは心残りであった。

この国にも日本人会がありその会長の高田昭子さんにお会いした。日本とブルガリアの国際協力に関する事でご相談にのりますと言っていたし、「草雅」（そうが）という生け花教室を開いているリマ・ミルスカさんという気品のある伯母様とも話をする機会が得られた。



わがグループの皆さんは、かねて打ち合わせの通り、持ち寄った日本酒をついで、日本風のお土産を配り始めている。合唱団がもう一度歌って引上げようとしたのを見て、「サクラ」の歌のお札にプレ

ゼントを渡そうと総出で大忙がしであった。

今回の訪問が二度目の人達は、再会を祝して旧知のブルガリアの人たちと祝杯をあげる者や、はじめての人もどきくきに紛れて交流を深めて写真を撮りあい、なごやかな国際交歓を繰り広げていた。

今回の旅行は幸いにも異国での盛大な「お花見会」に参加する機会に恵まれ、ブルガリアの人たちと一緒にワインを酌み交わす機会ができて、この旅行に花を添えることになった。ソフィアでお花見をした初めての日本人であるかもしれない。そしてこの盛大なお花見の元は、六年ばかり前に道南会の皆さんの拠出した二万円ばかりの基金であったことは一層意義深いことである。

これを機会に、ソフィアのお花見が毎年続けられることを願うと共に、末ながく声援を送り続けて行きたい思いを新たにしたい。

「見聞を広げる」という言葉がある。

ブルガリアはもちろん、エストニア、ラトビア、リトアニアなどという国は、今までは何の縁もなかった国だが、今後はこの国に関することがテレビや新聞記事で紹介されると、今までと違った関心を持って見ることになる。つまり時間がたつにしたがって思い出が広がり、見聞したこと奥行きが深みが増すということ言っているのではないだろうか。

バルト三国駆けめぐり

川守田孝平

一九九九年に相馬先生のお話が始まった。道南会の皆様に寄付をお願いし、ブルガリアに桜の苗木を贈ってから、早いもので五年が過ぎた。先生の所に、その桜が順調に育ち、春には見事な花を咲かせるだろうとの知らせがあったと聞き、今度は花見のためにブルガリアを訪ねようと参加者を募った所、二十五名の申し込みがあった。三年前の植樹の時はトルコとチェコを廻ったが、今回はサンクトペテルブルグとバルト三国に寄ることにした。

バルト三国は、バルト海東岸に位置するエストニア、ラトヴィア、リトアニアの国々で、第一次世界大戦後に独立したが、一九四〇年にソ連に併合され、一九九一年再び独立を勝ち取り、今年、二〇〇四年五月、遂にEUへの加盟を果たし、ヨーロッパの仲間入りをした。紙面の都合で、バルト三国の中のリトアニアの様子だけを述べることにする。

リトアニア共和国

バルトの国を北からエストニア、ラトヴィアと旅して来た私達は、ラトヴィアの首都リガをあとにして、最後の国リトアニアに向かった。一時間ほど走ると、ラトヴィアとリトアニアの国境に差ししかかった。

女性の係官がバスに乗り込んできてバ

スポートを集めて行ったが、入国手続きはバスに乗ったままで終わり、リトアニアに入国、ヨニクスという静かな町を過ぎ、暫くして十字架の丘に着いた。

広大な畑の中にある丘は、大小様々な十字架で埋め尽くされていて、一寸異様な光景だった。虐げられた長い歴史の中で、人々の祈りと悲しみが伝わって来るような印象を持った。

十字架の丘をあとにしてカウナスに向

四月二十二日、リトアニアとは「雨の降る国」という意味だそうだが、その通り今日は雨が降ってきた。

リトアニアの人口は三五〇万人、平均年齢は男、六十四歳、女、七十四歳と言う。主な農産物は、サクランボ、リンゴ、ナシ、プラムなどである。

カウナスの観光は旧市街地のカウナス城から始まった。十三世紀にドイツ騎士団の侵略を防ぐために作られたものだ。

次に行った聖ペテロ・パウロ大聖堂は赤いレンガの美しい十五世紀の聖堂で、壁一面に描かれたフレスコ画と、素晴らしい彫刻で飾られた祭壇が印象に残った。

この町には、旧日本領事館が昔のままの姿で、「杉原記念館」として残っている。第二次世界大戦初期、当時の杉原千畝領事は、ナチスの迫害を逃れて米国へ渡るユダヤ人のために、日本外務省の指示に背いて、二十四日間で千六百枚のビザを手書きで発行、約六〇〇〇人の命を救ったと言った。



かう途中、大きな風車のあるモーターで

休憩し、一時間半ほどでカウナスの町に着いた。

四月二十三日、今日は首都ヴィリニウスの観光。リトアニアの国宝に指定されている聖ペドロ・パウロ教会を見学した。一六六〇年から三十年かけて外装を、更に内装に三十年かけて完成させた立派な建物である。

外はシンプルな造りだが、中に入ると漆喰の彫刻が見事なものだった。天井から吊り下げられた船形のシャンデリアはノアの箱舟か、ペテロとパウロの船か、死んだ人を天国に導く船かなど様々な説がある。

次に旧市街に入り、一五七九年に創立した東欧最古の大学ヴィリニウス大学、十八世紀に建てられた大統領官邸を見て、アルキカテドウラ大聖堂を礼拝した。

神殿風の荘重な造りのこの建物は、十三世紀にミンダウガス大帝が建立、ウクライナ産の青い大理石が多く使われている。三〇〇年前のものと言うドイツパイプオルガンが、静かに演奏されていた。

琥珀博物館は路地の奥まった所にあり、見事な琥珀の陳列品や、本物の見分け方の実験などに女性の皆さんの真剣な眼差しが集まった。

一日三〇〇キロ以上もバスで走るといいうハードな旅にも拘らず、皆さん元気で観光と買い物を楽しんだ。またその国その土地の、食べ物と飲み物をゆつくりと味わい、異国の風土を身体に感じたバルト三国の旅であった。

深い感動を覚えた。

『会員プロフィール』

平成十五年の新年号の会報に「会員プロフィール」を掲載、十二名の会員からご自分の生い立ち、経歴、お仕事、趣味やご家族のことなどを紹介して戴き、会員相互の理解と親善に大変役立っております。

平成十五年夏季号には五十二名の会員から、更に今年の新年号には二十九名の会員から原稿を戴きました。今回は四十三名の会員から原稿を寄せて戴き、そのために会報を増ページいたしました。通算で一三六名の会員をご紹介しましたが、今後とも一人でも多くの会員に登場して戴きたく宜しくお願いいたします。(原稿は二百字程度で、内容はご自由にお書きください)

青柳隆義 函館大火の昭和九年若松町で生れる。小学校四年から二年間、母の実家の厳寒の美深町に疎開した。製場中松川中から函館工高へ、卒業後日立製作所多賀工場に二年間勤め昭和二十年退社、

を務めています。浮世の義理が重なつて東高「関東青雲同窓会」の会長も引受けました。東高OBの皆さん、よろしく。

上京して大学へ、アルバイトをしたご縁で三十五年(株)千代田化工建設に入社。欧米への出張やプラント建設の現場への赴任が多く、三十五年間の勤務を終えて既に十年になりました。横浜市在住、家族は妻と息子三人は独立し孫五人。趣味はテニス、スキー、囲碁、将棋など。

厚谷 論 昭和二十八年、長万部で生まれたい。父が教職にあつたため、道内を転々とし、小学校は森町濁川、中学は上磯町茂辺地で過ごし、高校は憧れの汽車通で中部高校に通う。長嶋に憧れた。しかし朝六時三十分発の蒸気機関車が憧れから苦痛に変わり、二年の秋野球部を退部。群馬の大学を卒業後、市役所奉職。現在、東京事務所勤務、二年前から始めたゴルフで、東京での单身暮らしを楽しんでいる。

朝倉敏夫 一九四一年、函館市北浜町生まれ、北浜町育ち。万年橋小、芸芸大付属中、東高、ICUを経て読売新聞政治記者一筋。その間、三年半ほどワシントン特派員。今は、早く「悠々」自適の生活に入りたいたいと凡俗の悩みながら、常務取締役・論説委員長という役割

阿部喜久雄 昭和二十五年、森進一、島倉千代子の歌で知られる日高管内えりも岬で出生。NHKのプロジェクトXで

放映された黒松の植林事業に子供の頃、コンプ漁を営む親とともに従事しました。

苦小牧の高校を経て東京の大学を卒業後函館市役所に入庁し、今年の四月から東京事務所長に就任。無芸大食(大飲)なので、在京中に自分に合う趣味の発見や各界(会)の方々との交流を深めたいと考えています。どうぞ宜しく願ひいたします。

一戸光一 昭和十九年函館市本町に生れる。柏野小、的場中、中部高卒。大学院卒業後、国鉄入社、札幌、仙台、東京、名古屋、大阪、広島等で勤務。昭和六十二年民営化により(財)鉄道技術研究所へ移籍。出改札関係の研究開発から宮崎県日向市にあつた超電導浮上式鉄道の走行実験に携わつた。現在日立プラント建設勤務。下手なゴルフを楽しんでいます。

池上謹之助 大正末、津山に生れ父の勤めで帯広、稚内、陸別、野付牛から函中へ。十八年四月関西に遊学中、十九年六月陸軍に入営、終戦により復員。縁あつて逗子に所帯を持ち、米軍基地に停年まで三十八年間勤め上げる。現在は毎年開かれる函中同期会(翠楊会)で旧友と交友を深めること、かつて台湾留學生に

がんばるべく努力している。

今井 清 大正九年函館市で生まれ、千代ヶ岱小、函館中学を経て旧制高校在学中に太平洋戦争勃発、大学卒業後海軍技術士官として工廠に赴任したが間もなく終戦を迎えた。戦後は船の検査を行なう日本海事協会に勤務し、約四十年間わが国の造船、造機技術の発展と共に歩むことができた。退職後、内燃機関の国際規格の制定改廃などに関わり現在に至つている。道南会では皆様にお会いし、懐かしい函館の様子をうかがうのを楽しみにしている。

江田健治 昭和二十四年、上ノ国町に生れ、昭和四十四年上京、中央労働学院修了後、衆議院私設秘書を経て五十八年千葉県白井町議員初当選。以来、六期連続当選(現在市議二期目)しています。活動のモットーは「共に考え、共に歩む信頼の政治を！」と訴え、市民生活相談会を二十一年続け、二千名を超える皆さんからの相談を受け、その中から、学び一歩づつ前に進んでいます。愚直に、ガニコに民主主義を追求しています。故郷の大自然に感謝しつつ……

越後信一 昭和六年栄町に生れ、チンチン電車と大森浜の潮騒を子守唄替わりに聞き育ち、十九年春東川国民学校卒業

家庭の事情で青森市に移る。長じて日東化学工業の社員として約四十年、高度成長の荒波に揉まれ、事業所と住宅の数は自慢とすればこの位。現在鹿島工場勤務時代に取得した隣の千葉県に住み、地域のシルバー人材センター会長を始め、民生委員、社協役員ほかボランティア活動に生き甲斐を感じている。

遠藤 宏 一九三三年函館市生れ、柏野小学校六年の時、父出征のため父の郷里新潟に転校。帰函後中部高校を経て教職課程の道を歩む。一九六〇年に上京、教育関係出版社の編集を担当、編集長時代「学校教育全書(十六巻)」の大作を企画、編集し、当時教育界や出版界から高い評価を受ける。テニス歴五十五年、数々の大会にも参加、現在も週二回程汗を流している。問題児の教育支援や、今年の埼玉国体のボランティア活動に参加を予定している。

大西孝司 昭和十年双子として生れ。新川小、中、中部高卒業まで函館で過ごす。住友鉱山入社後は、余市、札幌、東京と住居を替え、平成九年退職。現在は終の住処となるかもわからねど、富士山の見える茅ヶ崎市に住んでいる。妻も北海道の生れ、子供三人、孫はそれぞれ二人づつ。趣味は自称、囲碁、釣り、料理であるが、他人は麻雀とゴルフという。

函館に帰ることは殆どないが、故郷の山臥牛山、周辺の荒々しい恵山、秀麗な駒ヶ岳と共に思い出は一杯残っている。

小熊勝夫 昭和十七年人見町生れ、柏野小、的場中、中部高を経て東京に進学築地市場の北田水産(株)に就職。五年後家業の小熊水産倉庫(株)に戻り、東京、函館で働き社長として十数年、歴史ある企業を近代的総合食品会社にもつていくべく経営に努めました。バブルの波にも弾け、平成五年夏整理を決断し、函館市の歴史の一部として消え去りました。

その後ロシアとの水産物輸出入に加わり現在健康食品の販売およびICカード関連で働いています。生涯現役という積極的な気持ちで元気に励む毎日です。

尾田アツ子 昭和十六年森町尾白内に生れ、尾白内小・中学校を卒業、函館商業高校に入学。毎日往復四時間、汽車通学で卒業後、森町役場に勤務。その後上京、就職、結婚、子供がそれぞれ高校生中学生の時、再就職して現在に至っております。趣味は子育て中はテニスとパッチワーク、今は芝居、映画、読書、テレビドラマは仕事柄いろいろ観て、ジューピロ磐田(サッカー)を熱く応援。今やりたいのは「越中おわら風の盆」に行つて踊りたいと思っております。

神山茂郎 大正十一年生れ、千代ヶ岱小から函中卒。昭和十六年から一年間高龍寺で禅生活。高水卒、豊橋陸軍予備士官学校卒、宇都宮東部第三部隊初年兵教官、ポツダム少尉。以後水産加工二本槍。平成元年に神山茂(父)賞を設立、爾來函館及び道南の郷土史研究家の発掘に鋭意努力。本年四月神山茂著作集(約千頁)発行。函館及び道南の関係者、北海道東北の全図書館に配布、いささかなりとも郷土函館を愛する一念。

河替 力(カワガエツトム) 一九三〇年松川町に生れ育ち、巴小、函館市立中(現東高)、北大水産学部卒業後、役人生活、会社勤めを大過なく修了。七十路を過ぎた現在、俗に言う晴耕雨読の生活野菜栽培のマニュアルを手に新しい発見や新しい感動に一喜一憂の日々をすごしています。帰郷の度に寂寞とした風景を観るにつけ、脳裏に去来する昔日に想いを馳せ、明るいニュースを待ち侘びています。

菊地紀邦 紀元二六〇〇年生れ(一九四〇年)のことから、私の母校である中部高の教諭(数学)であった父が、その一字を使い私の名が誕生した。元町のハリストス正教会の庭が遊び場で、青柳小へ入学した頃は今は懐かしく、帰省の度に訪れています。大学卒業と同時に縁があり、山梨県庁に世話になり、席を共に

していた妻と結婚したが、平成十二年に先立たれた。退職した今は娘と愛孫子と旅するのが楽しみである。

木村幹雄 昭和九年、留辺蘂町に生れ父の勤務の関係で小学校四回、中学は毎年の転校で三年の時、的場中に転入、函工卒業。特別調達庁札幌局勤務、防衛施設庁本庁(旧調達庁)自己退職。最後は(財)防衛施設周辺整備協会茨城出張所長で退職。今は歴史の里、石岡で名所旧跡を探索、また朝には自然環境に恵まれた周辺を散策しています。今は歴史の研究?をしています。趣味は旅行、ウォーキング、酒です。

工藤昌久 昭和十年杉並町生れ。柏野小からの場中、東高と一貫して函館育ち、親元を離れて小樽商大に進み、卒業後は(株)日本ビクターに入社、初めて海峽を渡り上京。以来三十五年間、主に営業畑と事業部門、研修部門に携わり、東京、横浜、大阪、福岡、広島など国内の転勤を重ねた他、海外の現地法人の販路開拓で先進十数ヶ国を歴訪し、幅広く内外の人々との出会いと交流の機会に恵まれたのが何よりの収穫でした。最近は図書館通いと老化防止に散歩を日課としている。

黒丸正吉 道南会の年会費免除年令層の一員です。明治末期、函館区恵比寿の

八百屋に生れる。昭和四年函館商業卒、

即(株)三菱鉱業に出勤。七月小樽支店配属

となり、会社の独身寮に入る。以来七年

余り寮生活を続け、期せずして自己研鑽

に絶好の歲月を送り得た。現在、趣味と

して人前に披露できるのは「クラシック

音楽鑑賞・スキー・麻雀」くらい。

小谷泰三 昭和七年東川町に生れ、天

神町育ち、弥生小、函工卒後、東洋高压

(現三井化学)にバスケットの選手と

して入社。昭和三十三年の全日本選手権

を最後に引退。会社の協力業者として厚

生関係の仕事に従事、六十九歳で引退。

現在は藤沢市グリーンスタツフとして月

十五日間くらい山に入ってボランティア

活動を行なっている。七十歳を過ぎてか

ら新しい友が出来、汗をかいた後のビー

ルを飲みながらの歓談に幸せを感じ、体

力の続く限り活動を続けるつもりです。

佐藤成子(せいこ) 千代ヶ岱小学校

大谷中・高校卒業後、東京の短大で学び

栄養士に。二年間森永乳業勤務。子供二

人も家庭を築き、定年退職の主人と私の

母との三人暮らし。趣味は旅行、ウォー

キング、ピアノ、頭の体操に英会話と韓

国語、週一回のボランティア活動など。

高校時代はテニスに熱中し二年前まで楽

しむ。入会したばかりですが、皆様との

ぞ宜しく願っています。

齋藤勝美 昭和十九年豊川稲荷のすぐ

近くで父の十一番目のバツチとして生れ

ました。東川小、旭中、西高と進み十八

歳で東京、明治大学から就職。営業を担

当して三十六年目の今年還暦を迎え嘱託

として会社に残る予定。四十二年も東京

で暮らしておりますが、未だ暑い夏には

閉口しております。西高の仲間と同期会

同窓会を楽しんでおり、三年前に先日お

亡くなりになった早坂さんの首頭で東川

会を立ち上げ、大いに楽しんでおります。

子供は一姫二太郎の二人です。

坂本保子 (旧姓 伊賀) 一九三七年

生れ、弥生小、白百合学園と函館で過ご

し、その後東京で学生生活、そして結婚

した。道南会は、なつかしい函館のつなが

りを支える一本の綱です。同じ道南に生

れた人々との触れ合いは、年令と共に大

切な絆になっております、これからもよ

ろしくお願いいたします。

篠崎昭彦 昭和二年生れ、柏野小、弥

生小から旧制の函中、二高、東大を経て

住友金属鉱山(株)へ入社。社長、会長を歴

任して現在相談役。

妻(哲子)も函館高女出身、子供三人

は独立して、孫が幼稚園から大学生まで

六人。趣味は絵画鑑賞、ゴルフなど。こ

の会には元会長の山下静一さんのお誘い

で入れて頂きました。

菅 愛子 一九三六年春日町に生まれ

青柳小から白百合学園・中学・高校に学

び、卒業後東京、香料会社の高砂香料鉱

業(株)に入社、結婚後退社、専業主婦に。

長男は青山大卒業後クロネコヤマトに就

職、既に結婚独立して男子二人あり、現

在は海外勤務中です。私は現在、現役で

仕事をしている主人と二人暮らし。合間

をぬって友達と趣味や旅行、食べ歩きな

どに元気で過ごしております。これから

は残りの人生を悔いなく有意義に送りたい

と思っております。

瀬田松吉昭 一九三二年鶴岡町生まれ。

大火で焼け出されたが、建て直した家で

十九歳まで過ごす。大森小、函中を経て

大学卒業後、家を継ぐつもりが、家庭

の事情から東京へ。仏系映画社等を経て

現在の(株)日交へ。一貫して経理総務畑。

現在監査役で後進の指導中。趣味は現役

引退後はじめた書道や読書、映画や音楽

鑑賞・パソコン、スポーツはゴルフ。J

リーグ「浦和レッズ」の熱烈なサポータ

ー。最近野球は見なくなりました。

染木志郎 昭和二年天神町に生れ育ち

弥生小学校卒業、室蘭、札幌を経て函館

に戻る。国鉄青函鉄道局(施設関係)に

勤務。昭和四十一年東海道新幹線支社に

転勤、四十九年東北新幹線建設のため東

京工事に転勤。五十七年国鉄退社、関

連会社勤務、二つの会社に七十二歳ま

で勤めました。趣味は麻雀、囲碁、旅行

で、二十数年前から年に一〜二回は家内

と海外旅行に出歩いています。

多胡孝二 昭和四年函館生まれ、大森

小、函中を経て内地に進学、四十九年建

築設計事務所を経営、現在に至る。その

間心に残る企画があった。自分で土地を

選定。建物を発注、完成後は自主管理す

るコーポラティブ住宅である。見知らぬ

者同志が完成時には家族同様の仲間とな

っている。私は大蔵省職員等八百戸の、

この住宅の建設に関わってきたが、お互

いの自立を尊重し助け合う、この住まい

方こそ終の棲家ではなかるうか。余生を

この建設にと思っているこの頃である。

趣味ゴルフ、盆栽。

田辺洋二 昭和八年生まれ。杉並町で

育ち柏野小、市立中・高校を経て東高校

一期生。早稲田大学教育学部で英語を専

攻。五年間中学校で教えてから米国に留

学。帰国後、昭和四十年から古巣の早大

教育学部の教員になり退職まで二十八年

間在職。その間、早大混声合唱団の会長

就職、学部長。今も早稲稲門会の会長、
大学英語教育学会会長、中教審外国語専
門委員などをしてている。趣味はピアノを
少し弾く。

谷藤由紀子 昭和十六年生れ。大森小、
旭中、高校は旭川で明治生れの伯母の所
から通い、アクセントからお花の稽古、
洋裁などを教わった。函館に戻り文化服
装に通学した二年間が私の青春で、夢を
実現したく二年間「カネボウ」に勤めて
結婚。すぐに洋裁店の針子となり最後は
育児をしながら三年通勤しました。三人
の息子達を育てながら家で洋裁教室を開
いて大学卒業迄頑張りました。今は中国
骨董を趣味にしている息子との中国旅行
や洋裁とパッチワークを楽しんでいます。

弦巻綱男 大正十三年松前生れ、松城
小、函館師範在学中学徒出陣、二十年九
月卒業。函館常盤小、弥生中に三年間奉
職。青雲の志を抱いて進学のため上京。
再び都内公立学校に三十数年間、昭和の
混乱の教育の正常化に努力、平成の教育
の橋渡しの役割に貢献した一人と自負。
公立校校長とし定年退職、区教育委員等
を経て現在私立学園大学の国文学講師と
して、若い人に源氏から枕草子、唐詩の
大和心に通ずる心にふれ教えている。

「いぶし年 その道一筋悔いもなし
きょうも教場で究め伝えんと」

花巻省三 昭和二十三年、大野町生れ、
町の小・中を経て函中から北大へ。北東
公庫に就職、公庫は政策投資銀行となり
検査部長を最後に平成十四年退職。現、
(株)北海道糖業監査役。公庫時代に函館山
ロープウェイの開発など函館圏の振興に
汗を流し実を結ぶ。函館圏は定住人口よ
り交流人口の拡大に力を入れ、魅力を深
め洗練して外に発信する努力を。夜景を
始め温泉、食、歴史、人情等々と材料豊
富、ハードより知恵と工夫のソフトパワ
ーで。圏域が生み育んだ人材も魅力づく
りに。啄木、亀井、清玄、二上、早坂、
辻、北島・等等、実に多彩である。

福田裕子 明治初期、函館西部地区に
「志満家」という料亭があり、日露漁業
や海産商で繁盛し、その跡目にと育てら
れましたが、戦後復興ならず、大谷幼稚
園、青柳小、白百合学園から東京の学校
に進学。そのまま商社員と結婚、子供が
三歳の時から海外駐在員の生活が始まり
第三者的立場から見て日本の素晴らしさ
を確認しました。私も子供達も沢山の友
人に恵まれて人間的に成長させて頂き、
人生が豊かになり、その活力を育てなが
ら生活できる事に感謝しております。

古里健三 昭和三年函館生れ。大火ま
で青柳町に育ち、のち相生町で青柳小卒

二十一年函工建築科卒。函館市に就職、
都市計画、建築行政に従事、三十六年に
退職、設計事務所開業。平成五年柏市に
住む長男と次女より、自宅向けの家が売
りに出て、雨が降っても傘のいらぬ近
所との一言で柏市に来ました。現在は自
宅続きに長男の建築設計事務所があり、
不在時の応接などは私の専門分野であり
家内と協力して対応する日々です。

本間作喜 一九四三年、弁天町に生れ
育つ、今は谷地頭の墓だけ。幸小、船見
中、函館水産を経て上京(ああ上野駅)
から日産自動車へ十年(ブルーバードが
良く売れた時代です)。次に信州味噌メー
カーに二十五年、次に中国系商事会社、
今は小さな芸能プロの営業で、当分働き
ますが、小、中学の仲間が多く、楽しい
人生を送っています。

三田英彬 昭和八年函館市本町生、柏
野小から東高卒。横浜市大から慶応大学
院修了。学研勤務の後フリーライターと
なり、昭和四十年に「赤道直下アフリカ
大陸横断調査隊」を組織、ケニアのナイ
ロビに到達したがコンゴの戦乱で断念。
ウガンダ、ルワンダ、タンザニアと放浪
半年。帰国後作家生活の傍ら教壇に立ち
平成四年から大正大教授。東京に勤めて
いるが函館に似た横浜が好きで墓のある
函館に帰れずにいる。「北方領土」「青函

都宮、函館、橋本、仙台と家は移りまし

トンネル」など函館に関連する著作など
二十余冊。

南谷光一 (みなみやこういち) 昭和
十二年山背泊町(現入舟町)に生れ常盤
小、舟見中、有斗高校へ進み、中学から
始めたサッカーのお蔭で卒業時に、第三
回アジアユースサッカー日本代表に選ば
れる。国士館大学へ進学、四十年卒業後
コーチ、四十七年から三島市にある日大
三島高校で教鞭をとる傍らサッカー部監
督として指導にあたる。教え子の中には、
アテネオリンピック監督の山本昌邦氏を
はじめ多数。現在東京常盤会会長として
年一回の会を楽しむ。

宮川正治 大正九年松前町に生れる。
松城小修了後上京、倉前工業機械科卒業
個人経営の設計事務所勤務。十七年兵
役ににより北部軍司令部防空情報部隊に勤
務。終戦後再び上京、銀座通りの洋品店
に就職後、三十三年生命保険会社の料金
部門に途中入社、三十三年間勤め無事定
年。現在は健康維持のため週二回گران
ドゴルフを楽しんでいます。家族は娘二
人は結婚、孫四人曾孫一人。妻と二人の
年金生活を楽しんで暮らしています。

安田宏次 昭和二十二年郡山市に生れ
父の仕事の関係で秦野、函館、水戸、宇
都宮、函館、橋本、仙台と家は移りまし

たが、やはり二度住みました函館が私にとつては故郷と感じます。特に的場中、中部高で過ごした六年間は一番思い出多い時代です。その後、上京、大学、就職と東京での生活が長く、現在、印刷紙器関係の仕事をしておりますが、一昨年十月より単身赴任で大阪に来ております。

休みは趣味のゴルフを満喫しています。中々函館に行けないのが残念です。

山田 茂 一九二九年、青柳町に生まれ天神町に住み函中から進学のため上京爾来ほかに居を構えたことなし。大学卒業後、大協石油（現コスモ石油）に入社、取締役、常勤監査役を経て退職。しばらく会社経営に携わり昨年より年金生活。

第一次石油危機の際、社とナショナルレキユリティのため原油確保に中東・アフリカ・欧米を駆けずり廻った事が最も印象深い思い出として残っております。趣味はゴルフ、日曜大工等、家では妻とシエバードと一緒に暮らしています。

.....

山田 隆 昭和五年生れ。柏野小から函中へ、昭和二十一年夏の中等野球大会で道代表校選手として出場した。旧制高校、大卒後、日本セメントへ就職、東京、門司、仙台、札幌で調査営業関係の業務に従事した。後に関係会社の再建を託され、苦節十年、人員削減せずに新製品の製造販売を主に達成した。この間も野球

人生を楽しみ、OBインターハイ（二十二校出場）に参加、幕引き後も残党で作る老年（七十二―八十二歳）紅白戦（年二回）でプレイを続けている。

.....

吉田 孝 昭和十年杉並町生れ、父は長年函館商業の教師を勤めた吉田清、元道南会長の山下静一氏が父の教え子の縁で入会した。柏野小、的場中、中部高を経て東京に進学。就職後フルブライト給費生として米國留学。平成十三年に四十二年間の会社生活を終え、以来自適の生活。中部高で音楽部に属し、三年生の時全日本合唱コンクール高校の部北海道代表として全国大会に出場。合唱を趣味とし現在は混声合唱団水曜会に所属、週一回の練習と後の飲み会、毎年の演奏会が生活のリズムを作り張りともなっている。

.....

若杉康孝 昭和十年、若松町で靴鞆店を営む家に生れ、若松小、新川中、中部高から東大農学部を卒業。昭和三十三年三井物産入社、米國西海岸のシアトル、ポートランドに十三年勤務、昭和六十三年から関連会社の給食サービス業のエームサービス（株）に移籍、十六年間同社で社長、会長、相談役を経て平成十五年退職。男子二人、孫一人、仕事をしていた時期は殆ど子供の相手をしてやれませんでしたのが、今は三歳の孫の相手をたいへん楽しんでおります。

十六年度新年総会

一月二十四日、定刻前だがほぼ席が埋った今日の会場、プレスセンター十階ホールでは、毎年五稜郭で開催され、今年十七回目を迎える「野外劇」のビデオ、NHKで放映された「函館野外劇場・歴史とロマンの街・函館」が上映されており、皆熱心に画面に見入っていた。

今日の出席者は一二七名。総会は中村副会長の開会のことばで始まり、田沼会長が挨拶をされ「今年は何り提督来航一五〇年の年に当り、函館市では色々な行事を企画していると聞いているが、道南会も出来るだけの応援をしたいと考えている。

昨年、市東京事務所と道南会などが中心となって、ふるさと会や同窓会及び企業の組織が一堂に会し、「あすの道南を拓く会」として、ふるさと発展に寄与するための活動を行うこととし、その一環として郷土訪問旅行が企画されているので、多くの方々の参加を期待する。

今後共皆様のご支援とご協力を賜りながら、道南会発展のために努力して行きたい」と述べられた。

次に来賓を代表し、函館市井上市長の代理として西尾助役が「昨日、全国子ども歌舞伎フェスティバルを観劇しました。全国から八つのグループが参加し、何れ

も好評でしたが、中でも函館子ども歌舞伎一座の演技は、眼を見張るものがありました。次に函館市の現況についてお話ししますが、はこだて未来大学は、今年第一期生が卒業し、各方面からの期待を集めています。



市町村の合併については、十二月一日より新しい函館市が発足します。合併するのは函館市、恵山町、南茅部町、戸井村、榎法華村の一市、二町、二村です。

尚七飯町は鹿部町と、上磯町は大野町との合併を目指しております。

北海道新幹線については、実現に向けて昨年十二月、井上市長が各関係方面に精力的に働きかけをされました。新函館まで新幹線が伸びれば人の流れが変り、函館の観光推進に大いに期待出来ると考えられております」と挨拶された。

次に川守田副会長からの会務、会計報告があり、続いて、函館野外劇の会の輪島幸雄様より野外劇の紹介があり、「一人でも多くの方の来函と観劇をお願いしたい」との要請があった。

以上で総会が終り、松田昇顧問のご発声により、函館市とサッポロビールから寄贈された、はこだてワインとサッポロ黒生ビールで乾杯し懇談に移った。

懇談の途中、板垣副会長より新入会員七名(別記)の紹介が行なわれた。

宴たけなわの中、恒例の福引抽選会が始まった。盛り沢山の賞品に会場は一喜一憂して賑やかさを増し、本日の一番の目玉である「花びしホテルペアー宿泊券と往復航空券」が相馬正樹氏に当り、盛り上がりは最高潮に達した。

はこだて弁での歓談はなかなか尽きないが、閉会の時間が迫り、沼崎常任幹事の威勢の良い一本締めで今年の総会を締め括り、名残を惜しみながら三々五々散会した。

(葉袋 泰記)

新年総会出席者名

〔来賓〕

- * 函館市助役 西尾正範
- * 函館市商工観光部長 古川雅章
- * 北海道東京事務所長 嵐田 昇
- * 函館野外劇の会 輪島幸雄
- * サッポロビール営業推進部専任部長 手島孝雄
- * ビックホリデー営業部長 山口恵市

〔参加者〕

- 安達昌子、厚谷論、阿部正身、荒木道雄、池上謹之助、泉龍夫、板垣寿見子、市川一彦、今井清、大水和彦、尾田アツ子、笠川雅彦、加藤信利、金谷稔、金子公彦、金田誠一、川口嵩子、川小ヒナ子、川守田孝平、川守田礼子、甘露寺愛、菊池紀邦、北上良夫、木谷勝子、小坂鉄雄、郷内繁、小島幸子、小林寅雄、小林嘉則、小宮山恵三郎、小森良彦、小山育子、小山和彦、加藤貴美世、小山慶子、斉藤彰、酒井哲美、坂本保子、佐々木直、佐藤成子、佐藤美美子、佐藤元昭、島田瑞子、新谷和子、神れい子、菅原大作、菅原靖、杉沢順一、杉田博子、須藤珠実、瀬田松吉昭、相馬滋、相馬正樹、染木志郎、染木トシ、高木晃一、竹中裕行、田代沙智子、田辺彩子、谷藤由紀子、田沼修二、田村治雄、田村保子、田村良人、田村房江、土橋道子、徳田肇、敦澤義彦、弦巻鋼男、寺田耕治、時田厚子、鳥本玲子、

中川壽雄、長島康、中村崇、中村隆俊、中山泰誇、納代鉄也、新山春一、西村有人、沼崎貞良、沼崎茂子、根来美和子、能味寿哉、橋本保雄、英慶子、濱光徳、早坂茂三、早坂貞子、原ヒエ子、比嘉裕子、福島紀、福田裕子、福津達男、富士昭一、藤枝良造、古井勝春、松浦和彌、松代晃明、松田晃、松田州平、松前孝廣、三浦健蔵、三國栄頭、三國比左男、葉袋泰、三村寿雄、矢内喜代、山木和子、山下弘治、山田隆、山名昭二、吉田孝、吉田淑子、渡辺宏司

新入会員紹介 ()内は出身小学校

大水和彦(長万部) 宮下さんの紹介
 加藤貴美世(八幡) 時田さんの紹介
 甘露寺愛(東川) 小林さんの紹介
 木谷勝子(弥生) 松戸市在住
 佐藤成子(千代ヶ岱) 原さんの紹介
 杉沢順一(湯川) 福島会会長
 中川壽雄(常盤) 泉さんの紹介

平成15年度収支報告書

自15年 1月 1日至15年12月31日 北海道道南会

収入の部		支出の部	
前期繰越高	439,799	行事費	1,566,657
年会費	844,000	会議費	35,000
行事会費	1,666,400	印刷費	257,174
寄付金	58,000	通信費	224,138
受取利息	19	交通費	100,635
		消耗品費	22,808
		支払手数料	8,885
		雑費	92,767
		購読費	8,688
		次期繰越高	691,466
合計	3,008,218	合計	3,008,218

次期繰越高内訳	現金	28,740
	普通預金	654,866
	振替貯金	7,860
	合計	691,466

道南会行事報告

☆「新年総会」

一月二十四日(土) 午後一時開会
プレスセンターホール(詳細別掲)

☆「大倉山」観梅会

二月二十五日(水) 午後十一時
東急東横線「大倉山」より徒歩十分程
の丘陵地に大倉山梅園を訪ねた。二月と

は思われぬ好天気と暖かな陽気で庭内に
咲く紅白の梅を堪能し緑の芝生で弁当を
広げ歓談した。

参加者二十一名



☆「新宿御苑」観桜会

四月二十四日(土) 午前十一時

今年の開花宣言は例年より早く当日は
散り始めていると思われたがその後の天
候不順で絶好の花見となった、休日と好
天氣に恵まれ足の踏み場も無い程の出入
で大賑わい。花見酒を酌み交わし歓談し
た。

参加者十七名



☆「浜離宮恩賜庭園」散策

五月二十九日(土) 午前十一時

汐留ブームで有名な高層ビルの近くに
あるこの庭園は明治に造営された本格的
な庭園で緑豊かで都心のど真ん中とは思
えない感があった。菖蒲が咲き誇る緑の
絨毯の上での弁当の味は格別であった。

参加者二十名



☆サッポロビール工場見学会

七月二十四日(土) 正午集合

連日の猛暑で心配したが、予定通り全
員が参集。土曜日で工場のラインは止つ
ていたが、ベテランのガイドさんの案内
で工場を一巡。猛暑のおかげで出来たて
の生ビールが格別に美味しかった。

参加者五十四名

函館美術館新収蔵品展示

池田幹雄会員

北海道立函館美術館では五月に昨年
新しく収集した七点を中心に、収集済の
三十三点を展示した。新収蔵品はロシア
の巨匠といわれるスーリコフの「女子修
道院を訪れる皇女」や田辺三重松の長崎
県西海国立公園を描いた「西海九十九島」
などのほか、池田幹雄「月の砂漠」も含
まれている。池田会員の大作は童謡の「月
の砂漠」を想起して描かれたエジプトを
連想させる描写が目を引いた。

会報「道南」十六年夏季号

発行 平成十六年八月十一日

発行所 北海道道南会事務局

横浜市鶴見区生麦四一九一

十三七八〇三 川守田 気付

印刷所 (株)ソーラン社

中央区日本橋小伝馬町十六一八